

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900785	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	( 〒239-0807 ) 神奈川県神奈川県横須賀市根岸町4-10-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成29年8月23日	評価結果 市町村受理日	平成29年11月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・医療健康面で医師・看護師との連携がとれており、体調不良のときは機動的に受診対応している。なるべく長期入院にならないよう日頃より観察を励行してる。
- ・ふだん十分に外出の機会がないため、季節のイベント行事は利用者様の笑顔を第一の目標にしています。「よかった、おもしろかった！」と言ってもらえるよう職員一同頑張ってます。
- ・長く勤めてる職員が多く、自分の親にするようにやさしく接してます。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年8月30日	評価機関 評価決定日	平成29年9月19日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇高い職員の定着率 職員の過半数が開設時からの介護職員で、職員の定着率が高く、利用者と同様なじみで、利用者の安心につながっている。入職年数の浅い職員も、自分の意志表明の難しい利用者への対応に際しても、熟練職員の手法を見て学び、介護のトータル質向上に結び付いている。</p> <p>◇利用者の食べたいものを提供する、手作り調理 徹底した手作り調理を行っており、希望に合わせた食材購入からすべて、利用者意向を得て進めている。さらに一人一人の状況に合わせた切り方、味付けなど、家庭的サービスを実践している。</p> <p>◇系列医療法人との医療連携 月2回の内科往診、週1回の訪問看護、訪問歯科など、徹底した医療連携体制が確立しており、利用者・家族の安心に結び付いている。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>◇職員の自己申告書 年1回、全職員が提出する「自己申告書」には、職員から見た事業運営に関する数々の提案が記されており、事業所ではその提案の中から数々の現状改善策を生まれている。小さな改善の積み重ねが、介護の質の飛躍的向上に結び付くことが期待される。</p>
---

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム なごみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1回/月の職員会議や連絡ノートを活用して知ってもらってる。	・利用者の尊厳及び地域福祉の推進を前面に打ち出した法人理念に加えて、利用者が安らぎを実感できる、家庭的雰囲気を目指したホームを目標にして事業運営を行っている。 ・法人が医療系であり、介護と医療の両輪で利用者に対応している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所さんとの回覧板の閲覧や、日々のご挨拶を通し交流を深める。地域の中で分からないことは、直接町内会長さんなどに相談している。	・町内会に加盟しており、地域での避難訓練の際にも、地域住民から支援を受けたり、また職員と利用者は地域の祭りや敬老会、一斉掃除等にも協力している。 ・地域ボランティアに関しても、積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のご挨拶の中で、日頃ご理解をいただいていることに感謝の言葉を添えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では率直に現状を報告しご理解をいただいている。そこで出された意見を参考にさせていただいている。	・従来2か月ごとに開催していた町内会長、民生委員、地域包括センター職員、利用者家族らが出席する運営推進会議開催は、本年度に入り年初のインフルエンザ発生より中断している。現在事業所としては即再開すべく作業を進めている。	・事業所の運営状況報告・意見交換を通じてサービスの質向上をはかるために、運営推進会議の早急なる再開が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の講習会にはなるべく参加するようにしている。入居受け入れにかんしても相談している。	・横須賀市役所とは、居室の空き状況報告や市主催の研修案内をもらうなど電話、メールなどで頻繁に情報交換をしている。 ・横須賀市年1回のグループホーム集団指導会議において事業所は市の指導を受けて、事業運営している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あやふやな対応は中止（保留）させ、全員で考えるようにしている。	・事業所は契約書、重要事項説明書などに「身体拘束はしない」旨明記しており、また管理者は横須賀市の「虐待研修会」を受講し、内容を職員会議などで事業所内研修として説明している。玄関に直結する中扉は安全上施錠している。	・外部研修会には順番で全職員が参加できるように、研修計画の定型化が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の虐待講習会などに参加して、あらためて気持ちを引き締める。それを職員会議などで例を出し、具体的に話す。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度で入居された方がいらして、その時実際の仕組みの一部を学んだ。ただし、深くは理解しておらず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	こちらからお尋ねし不安の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに積極的にご要望をお聞きしてる。	・利用者の要望をこまめに聞きながら食事はすべて事業所で生協から材料手配手配し、独自に手作りで調理している。 ・年数回開催される家族会からの要望で、事業所の「なごみ祭り」では、利用者に日常出している料理を、バイキング形式で提供した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、職員会議などで意見を吸い上げてる。	・年1回の職員自己申告書提出で職員より、数々の提案を受け、ひじ掛け、足元開閉式車いす導入等の介護の改善策を進めている。また利用者起床時の温タオル清拭の実施などケアプラン、介護マニュアル改善に結びつく提案などもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人が定めた就業規則で運用されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会は減ってきたが、なるべく積極的に参加するようにしてる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	おもにGH協議会の講習会などに参加し意識向上に役立てている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活暦等の情報収集や、事前の面談を通してご本人との関係づくりを行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず事前訪問をして、ご要望などをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始時、何ができて何ができないかを探り出来ることを大事にする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「いっしょにやりましょう。」と促す声かけを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来ていただき、その中で情報交換してる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よく面会に来られる家族に、より広い範囲のお知り合いの来館を要請してる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問来館する際の家族により広く友人・知人の来館働きかけを依頼した結果、事業所全体で10件～15件/年の来訪者増に結び付いた。</li> <li>・利用者の墓参同行に関しては、職員数の関係から、家族による同伴でお願いしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の見守りを中心に、孤立しないようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ときどき来館され、いろいろとお話が出てくる。その中でご相談にのっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、「これは、○○したいですか？」と都度意向を確認しながら介助に当たっている。	・自ら意志の表明が難しい利用者に対しては、繰り返しの声かけを通じて本人の仕草態度、表情から意向をくみ取るようにしている。くみ取った意向は職員会議、申し送りノートへの記入、ミーティング伝達などで職員間共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後、新たに入手した情報も参考にしてこれまでの生活に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報交換し、ある程度つかめてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には、面会時や時々の電話連絡で問い合わせ、医師や看護師の助言をもらい反映させている。	・利用者家族へは面会来館のたびにケア状況を説明し意見を求め、月1回医療連携の医師、看護師の助言も取り入れ、職員会議でケアプランのモニタリングを行っている。 ・基本的には3か月に1回、必要なら随時、ケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議などで意見を出し合い、見直しを図り皆で共有してる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ゆくゆくは検討も、時間・人員のため難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の散歩や外出行事だけでなく、できる範囲でご家族にもお願いしてる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ふだんは2回/月の内科医往診と毎週の訪問歯科で対応してる。より専門的な検査や、緊急時は往診医の指示により受診してる。	・医療連携している法人系列の総合病院とは24時間バックアップを得られる体制にある。内科に関しては利用者全員が連携医との契約で週2回の往診を受けている。 ・週1回訪問看護師は、利用者1週間分与薬をセットして記録している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師出勤時に状況報告し、適切な助言・指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほとんどの場合、入院先は同法人なので情報が入りやすい。家族を通して情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、往診医の指示により同法人である提携病院を受診している。なるべく事業所で対応できるよう日々の健康管理を行っている。看取りに関しては、まだ実績がなく該当者もない状況である。	・重度化対応「看取り指針」はあるが、経営法人が病院のため、利用者は居室から介護室に移動するような感覚で病院に移り、今まで事業所内での看取り実績は皆無である。 ・入居時に家族には医師判断で入院させる旨、了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	考えられる範囲を想定して、会議などで緊急時の対応を話し合っている。また、日々の申し送りで注意しあっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内避難訓練の実施や防災の研修会参加を通し身につけている。また、町内会の防災訓練にも入居者様をふくめ積極的に参加している。	・年2回の避難訓練は夜間想定訓練と通常訓練に分け町内会長、近隣住民の支援を受けて実施している。 ・また地域防災訓練にも事業所をあげて参加し、近隣住民の協力も得ている。 ・水、食料は3日分備蓄している。	・3日分の備蓄水、食料は消費期限などを記載したリストがありません。備蓄品管理責任者とリスト管理が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部に聞かれる可能性のある場合は、姓名でなく「居室番号」などで伝えよう。個人記録、ファイルは必要ときだけ持ち出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者を人生の先輩として敬い、呼び方も苗字にさん付けとしてなれなれしい態度にならないよう気をつけている。</li> <li>・利用者への接遇方法を自分の身になって振り返り、嫌な思いをさせないよう配慮している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で好みや嗜好を聴きだすようにしてる。これだと思うことは、再度確認するように聞く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく入居者様のペースに合わせて業務を進めてる。ただ見落としや、やり残しがだんだん増えていく傾向で苦戦してる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気が付いたら直すようにしてる。モーニングケアから一日が始まるという心構えです。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調の好不調や、摂取量が増えるような工夫をしてる。時には、会話ははさんで食べるようにしてる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立は、利用者の好みを考慮したり、要望を聞いて、職員が作成している。</li> <li>・誕生会には、利用者の好きなお寿司やそばなどの出前を取っている。</li> <li>・敬老会は近くのファミリーレストランへ外食に出かけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立を系列病院の管理栄養士に見てもらい、カロリー面での助言が得られるよう期待します。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	無理強いしないことが基本だが、生命の危険もあることから声かけなどを工夫してる。人、タイミング、場所を変えトライする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず見守りにて実施。一部介助するが、基本は自力で行う。毎週来る訪問歯科の助言を受ける。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄用品の使用は柔軟に対応してる。体調の波（たとえば夜間せん妄など）により、使ったり外したりしてる。	・職員が利用者の排泄パターンを把握した時間での声掛けや、食前、食後、入浴前に、トイレでの排泄を行っている。夜間も時間での呼びかけをして、トイレに誘導している。少なくとも現状維持ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と食事方法を大事にしてる。食事の形態や、好みを考えなるべくお薬に「頼らない工夫をする。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安全第一で実施。その中で、その人のペースに合わせ実感できる時間を過ごしてもらってる。	・入浴は週2回、午前中に行っている。入浴に当たっては、転倒防止など安全面に気をつけて、利用者と職員が1対1で話し合ったり、歌を歌ったりして入浴を楽しんでいる。 ・入浴拒否者には、人・時間・場所を変えて入浴を促している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮し、安心してやすめるよう支援してる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服用出来るよう本人確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	だんだん長くお暮らしだと飽きてくるので、日々何がよいか考えながら対応してる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実際には車両もなく、歩いていける方もないので難しい。最小限季節イベントや近隣に車いすで出かける程度におさまってる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日には車椅子で近くの公園に10分程度の散歩を行っている。食材の買い出しに利用者と一緒に出かけることもある。</li> <li>・事業所のレクとして、河津桜や菖蒲園に車を使って全員で花見に出かけている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しいのと、不穩の原因になりやすいので個人の所有はありません。家族からの預かり金で対応してます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	来た郵便物は、ご本人に手渡して ます。投函の依頼があった場合は、ご 家族に相談します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を まねくような刺激（音、光、色、広さ、温度な ど）がないように配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	清潔清掃を励行してます。お花を 飾ったり、ちょっとしたものを掲示 したりしてます。	・花見の外出や誕生会などの写真を リビングに掲示して、利用者との会 話のきっかけとなっている。 ・清掃は1階は午前、2階は午後 に日勤者が行っている。利用者は食事前 のテーブル拭きや、洗濯物たたみを できる人が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	その時々で、適正な環境に身を置け るように配慮してる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	ご本人の希望を普段から探り、ご家 族に相談しながら配置換え等行っ てる。もちろん安全には注意してま す。	・事業所が用意する物として、エア コン、クローゼット、防炎カーテ ン、ベッドがある。ベッドは電動式 の介護ベッドを備え付けている。 ・利用者は整理タンス、家族の写 真、テレビ、仏壇など馴染みの物を 持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立し た生活が送れるように工夫している	たとえばトイレの位置が分かるよう な配慮を進めて行きたいです。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名                     グループホーム なごみ                    

作成日                     平成29年10月30日                    

**【目標達成計画】**

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が実施できていない。 地域の防災訓練時の座談会や、家族会の集まりでしか意見交換が行われていない。	11月中旬予定のなごみ祭り（家族や地域に声かけ）を皮切りに実施して行く。	1. 職員を補充し、開催準備できる勤務体制を整える（10/27日勤者入社済み）。 2. 開催計画を立てる。 3. 関係方面に連絡する。	平成29年11月～実施（11/19なごみ祭り）
2	13	外部研修会には、あまり参加していない。 勤務上無理がある。	なるべく施設長以外に参加の機会を与え、外部の刺激を感じてほしい。	1. 勤務シフトの調整（出勤時に参加できるように） 2. 会議などでテーマを探しておく。 3. 開催情報の収集	平成29年11月より実施
3	40	ここ数年間カロリー計算をしてない。	入居の際、具体的な数字として一日のカロリーを提示できる。	1. 湘南病院の管理栄養士に相談する。 2. 主治医、看護師の協力を仰ぐ。	平成29年11月 依頼予定
4	35	備蓄品の管理責任者が決まっていない。 備蓄品のリストアップが出来ていない。	年末までに実施する。	1. 管理責任者の選定 2. 備蓄品の整理整頓 3. リストアップ、掲示	平成29年12月 末までに実施
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。